

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 南曾根 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語、数学、英語）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学、英語）

教科に関する調査（国語、数学、英語）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

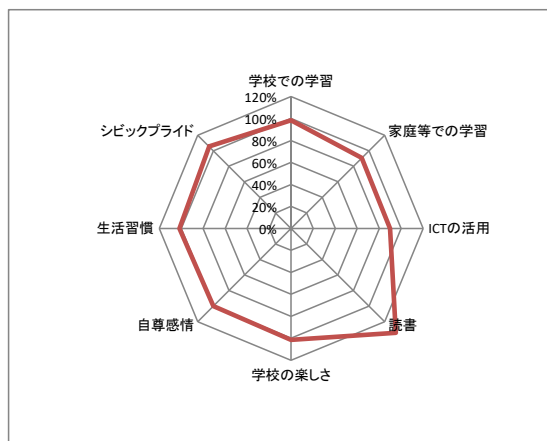
(1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、英語）の結果

本年度の結果	国語		数学		英語	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	10.3	69	7.3	49	6.8	40
全国	10.5	70	7.6	51	7.7	45

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	・正答数は、中位～上位に多く分布している。分類別では、特に話すこと、聞くことが全国平均を大きく上回っている。言葉の特徴や使い方、我が国の言語文化に関する事項においても、全国平均を大きく上回っている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・文脈に即して漢字を正しく書く問題、自分の考えが伝わる文章になるように根拠を明確にして書く問題で正答率が高い。	
	努力が必要な問題	・観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考える問題の正答率が低い。	
数学	全体的な傾向や特徴など	・領域ごとに正答数に差が出ているが、中位に多く分布し、上位よりも下位の方が多く分布している。図形や関数の領域を苦手としているが、計算、データの活用は全国平均を上回っている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・数と数式の計算や、データを活用する問題は正答率が高い。問題場面における考察の対象を明確に捉えることがよくできている。	
	努力が必要な問題	・図形、関数の領域の問題に課題がある。	
英語	全体的な傾向や特徴など	・聞くこと、話すこと、書くことが全国平均正答率より下回っている。特に書く問題では平均正答率が低かった。また、聞くことに関しては、聞き取りはできているが、意味を理解して問題に適した形にして回答する力が不足している。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・情報を適切に聞くこと、読むことができており、全国の平均正答率より大幅に上回っている。	
	努力が必要な問題	・未来表現の肯定文を正確に書くなど、与えられた情報に基づいて書く問題に課題がある。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・学校での学習について、「自分の考えを発表する機会では、うまく伝わるように工夫して発表している」や、「授業で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っている」に対して肯定的に回答した生徒が全国平均を上回っている。一方で、「授業で学んだことをほかの学習で生かしている」と肯定的に回答した生徒は全国平均を下回っている。 ・読書について、読書週間や読書の日の取組により、1日の読書時間が30分以上の生徒数や、読書が好きだと答える生徒の数値が全国平均を大きく上回った。 ・家庭等での学習について、「家で自分で計画を立てて学習している」「1日当たり1時間以上勉強している」と回答した生徒は全国平均を下回っている。 ・「学校が楽しい」「自尊感情がある」「生活習慣が身についている」「地域行事に参加している」「地域のことをもっと知ってもらいたい」という関連の項目で、肯定的な回答をした生徒が全国平均を上回っている。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・南中スタンダード（めあて→個人思考→集団思考→まとめ・ふりかえり）での授業改善を継続する。
- ・各教科でタブレットを活用した授業実践を積み重ね、生徒にとって便利な思考ツールとなるように工夫する。
- ・読書週間の設定や読書に関する取組を行い、読書に親しむ機会を継続する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・自主学習ノート（南中ノート）や補充学習を活用し、授業時間以外の学習時間の増加、定着を図る。
- ・朝自習テストや朝自習コンクール、南中ノートコンクールを行い、家庭学習の意欲の向上を図る。
- ・定期的な学校だよりの発行により、学校の取組を保護者・地域へ発信する。